

# 事業報告

(2022年4月1日から2023年3月31日まで)

## I 会社の現況に関する事項

### 1 事業の経過及びその成果

当期における国内経済をみると、前半は新型コロナウイルスに係る政府の行動規制がなかったことなどから個人消費が底堅いものとなったが、物価高が経済活動の重しとなり、後半は引き続きインフレ傾向となったものの観光支援策や水際対策の緩和などから個人消費や外需がプラスとなるなど、全体として見ればやや持ち直しの動きとなりました。

一方、県内経済は、住宅投資や公共投資が弱い動きとなり、生産活動も一進一退となったが、個人消費は明るさが見られる展開となったほか雇用情勢も改善傾向で推移するなど、緩やかな回復の動きとなりました。

こうした中、当社においては、震災学習列車の乗車人員が過去最高となったほか、いわて旅応援プロジェクトを活用した三鉄沿線駅ー1グルメ旅などの旅行商品の販売、プレミアムランチ列車（5～6月、10～11月）、かいけつゾロリ列車（7～8月）や、こたつ列車・洋風こたつ列車（12～3月）などの企画列車の運行や三鉄沿線10市町村ウォーキング（9～12月）の実施などにより収入確保に努めました。また、運転士のアイデアを生かしたナイトジャングルトレイン（7～8月）は全国的に注目を集めましたし、観光庁補助によるさんてつ縦断 駅伝列車の旅（8～9月）は復興道路を活用した仙台や八戸からの誘客の可能性を実証することが出来ました。

このほか、お絵かき遠足列車（5～10月）、小中学生用特別回数券の発売、冬休み自由研究列車の運行（12～1月）等により、園児から高校生まで広く子供たちの乗車機会の創出に取り組みました。

さらに、「鉄道開業150周年記念JR東日本パス」（10月・3月）などを活用して、多くの方が三陸鉄道にも乗車されました。

この結果、輸送人員は、新型コロナウイルス感染拡大や、沿線の少子化等の影響を受けているものの、地元利用や団体利用がやや持ち直したことにより前年度比100.5%の610,118人となりました。また鉄道事業収入も、地元利用・団体利用の持ち直しにより前年度比109.4%の356,050千円となりました。

関連事業収入では、旅行業において震災学習列車の乗車人員が過去最高となりましたが「いわて旅応援プロジェクト」を活用した商品の売上減により前年度比91.5%となりました。一方物産事業においては、直営店「さんてつや」の売上が過去最高となるなどにより前年度比120.0%となり、関連事業収入全体では前年比103.2%の63,526千円となりました。

経常費用については、修繕費、燃料他動力費、水道光熱費などが増加したものの、経費の節減に努め前年度比98.9%の1,091,182千円となりました。

その結果、経常利益は▲655,017千円となり、特別利益等を加えた当期純利益は▲806千円と前年度と比べて3,695千円の増益、計画と比べて153,291千円の増益となりました。

なお、当社では、安全・安心な輸送を確保するため、トンネルの改修や通信ケーブルの増設、マクラギのPC化工事、継電連動の更新工事を行い、社員の外部訓練会、研修会への派遣など障害や事故の防止に取り組み、鉄道事故0件を継続しています。

## 【損益の状況】

(単位：千円※税抜)

項目	2022年度 実績	2021年度 実績	前年度 増減	前年度比	2022年度 計画	計画増減	計画比
鉄道事業収入	356,050	325,328	30,722	109.4%	407,830	▲51,780	87.3%
関連事業収入	63,526	61,575	1,951	103.2%	53,040	10,486	119.8%
営業外収益	16,589	26,070	▲9,481	63.6%	15,000	1,589	110.6%
経常費用	1,091,182	1,103,120	▲11,938	98.9%	1,081,804	9,378	100.9%
経常利益	▲655,017	▲690,147	35,130	—	▲605,934	▲49,083	—
特別損益	661,693	692,350	▲30,657	—	456,561	205,132	—
法人税等	7,482	6,704	778	—	4,724	2,758	—
当期純利益	▲806	▲4,501	3,695	—	▲154,097	153,291	—

## 2 営業の概況及びその成果

## (1) 鉄道事業営業概況

## ① 輸送実績

2022年度の乗車人員については、沿線の少子化等に伴い、定期が前年度比91.4%の367,761人となったものの、定期外での地元利用や団体利用が持ち直し同118.2%の242,357人となり、全体では同100.5%の610,118人となりました。

運輸収入については、新型コロナウイルス感染症の影響を受けているものの、地元利用や団体利用がやや持ち直し、一般個札が前年度比115.4%、観光団体が同181.3%となったことなどにより、全体では同117.1%の303,009千円となりました。

○リアス線全体乗車人員

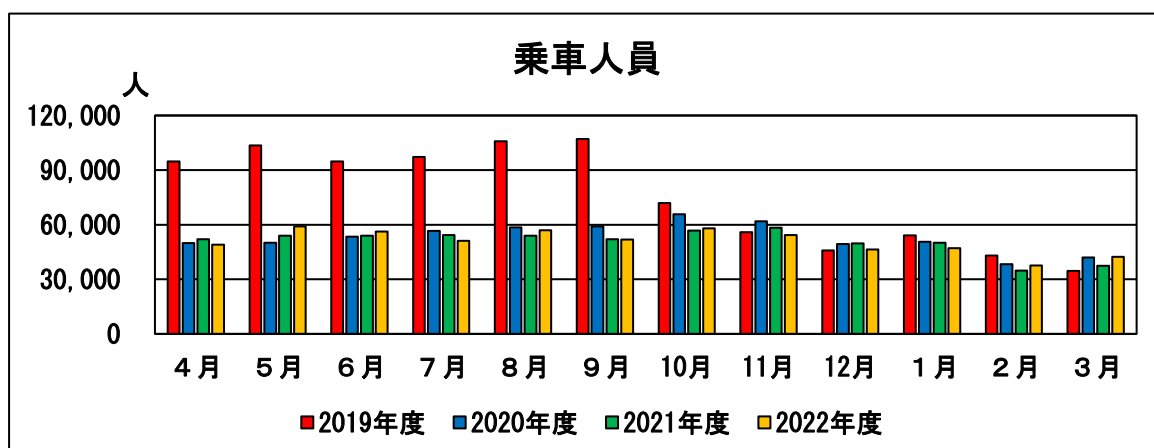
(単位：人)

項目	2022年度	2021年度	増減	前年度比	2019年度
乗車人員	610,118	607,316	2,802	100.5%	908,645
定期	367,761	402,274	▲34,513	91.4%	512,622
定期外	242,357	205,042	37,315	118.2%	396,023

○線別乗車人員※1

盛～釜石間	122,673	115,831	6,842	105.9%	177,717
釜石～宮古間	242,445	243,573	▲1,128	99.5%	436,895
宮古～久慈間	293,277	291,600	1,677	100.6%	380,351

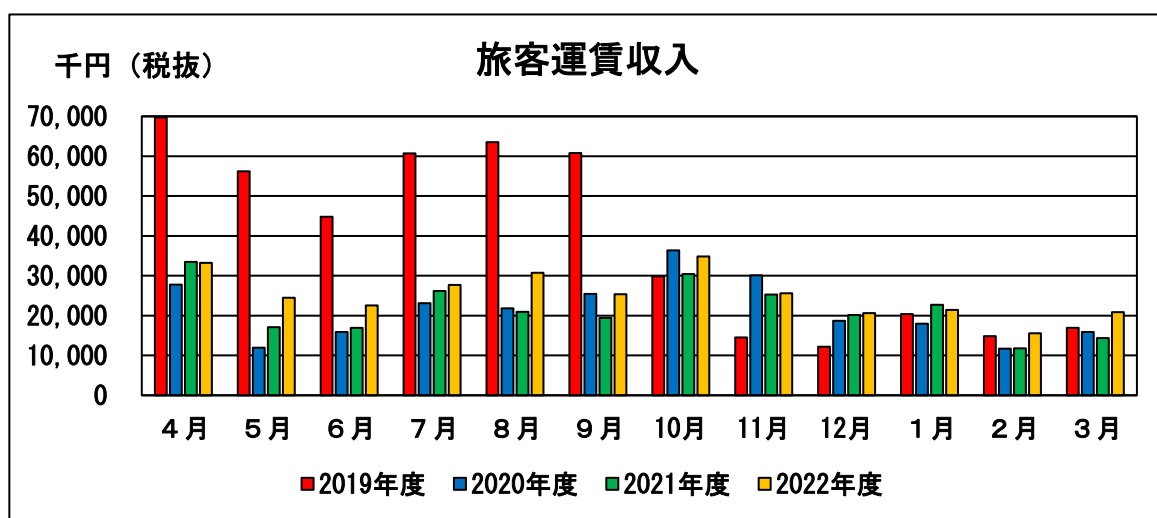
※1 線別乗車人員は、各路線を跨る乗車の場合、それぞれ1人乗車とカウントしてあるためリアス線全体の合計とは一致しません。



## ○運輸収入

(単位：千円※税抜)

項目	2022年度	2021年度	増減	前年度比	2019年度
運輸収入	303,009	258,724	44,285	117.1%	464,469
定期	78,480	86,336	▲7,856	90.9%	108,286
定期外計	224,529	172,388	52,141	130.2%	356,183
一般個札	145,286	125,945	19,341	115.4%	228,912
観光個札	28,544	12,974	15,570	220.0%	34,930
一般団体	21,071	17,128	3,943	123.0%	43,181
観光団体	29,628	16,341	13,287	181.3%	49,160



## ② 運転状況

2022年度の定期列車については、1日当たり、盛～釜石間で22本、釜石～宮古間を同じく22本、岩手船越～宮古間で1本、宮古～久慈間で24本を運転しました。

## 【運転状況】

駅間	盛～釜石	釜石～宮古	岩手船越～宮古	宮古～久慈
列車本数	22本	22本	1本	24本

## ③ 観光列車及びイベント列車等

通常運転の列車に加え、観光列車及び地元団体や企業との共催によりイベント列車を随時運転しました。

なお2022年度は、「洋風こたつ列車」・「こたつ列車」や「かいけつゾロリ列車」・「プレミアムランチ列車」・「ナイトジャングルトレイン」などを運転しました。

また、ヘッドマーク掲出やラッピングの実施等、他社と連携した企画も積極的に実施しました。

## 【主な観光列車】

- ・洋風こたつ列車 宮古～盛駅間 (12月10日～2月26日の土休日)
- ・こたつ列車 宮古～久慈駅間 (12月17日～3月26日の土休日)

## 【主なイベント列車】

- ・花見かき列車 (4月7日 1回)

- ・かいけつゾロリ列車（7月23日～8月27日 12回）
- ・プレミアムランチ列車  
宮古～久慈駅間（5月14日～6月26日の土休日）  
宮古～盛駅間（10月8日～11月13日の土休日）
- ・ナイトジャングルトレイン（7月9日・8月12日 2回）
- ・夜行列車「さんりくあさかぜ号」（9月17～18日 1回）
- ・三鉄沿線10市町村ウォーキング（9月～12月 10回）
- ・「復興の今、学習列車」ツアー（1月28日 1回）

#### 【他鉄道会社との共同企画列車】

さんてつ銀河の星めぐり号2023（3月26日）  
（IGRいわて銀河鉄道株式会社に車両貸出）

#### ④ 企画乗車券の発売等

- ・ジョイフルよ市きっぷを発売（6月～10月）
- ・岩手ビッグブルズ応援特別乗車券（2月9日～2月28日）
- ・小中学生用特別回数券を発売（2021年12月1日～）
- ・山田町中学生地域限定回数券を発売（2020年10月1日～）

#### ⑤ 鉄印帳の発売（2020年度から継続）

- ・第三セクター鉄道等協議会加盟40社共同企画として鉄印帳を発売

#### ⑥ 観光庁「看板商品創出事業」を活用したモニターツアーの実施

- ・さんてつ縦断、駅伝列車  
仙台発1泊2日 盛～久慈駅間（8月27～28日・9月10～11日 2回）  
八戸発1泊2日 久慈～盛駅間（9月3～4日・9月17～18日 2回）

#### ⑦ 企業等との連携

- ・企業ヘッドマーク及び車両ラッピングの実施  
ヘッドマーク ブラザー工業(株)、岩手日報広告社、KDDI(株)等  
車両ラッピング イオン東北(株)、ライオンズクラブ、海と日本プロジェクト in 岩手等

## (2) 関連事業営業概況

### ① 旅行業

2022年度は、依然として新型コロナウイルス感染症の影響をうけつつも、団体扱いがやや持ち直しつつあるほか、「いわて旅応援プロジェクト」を活用した個人向けの商品「三鉄沿線駅 - 1 グルメ旅」・「三鉄沿線の旅」を発売し収入の確保に努めました。

また、募集団企画の「かいけつゾロリ」企画は好調を維持しているほか、震災学習列車では利用者数が過去最高となりました。

#### 【主な旅行業の実績】

- ・着地団体：オリジナル震災復興研修 2件 51名参加（前年度1件 11名）
- ・一般団体：大型客船寄港OPツアー 6件 221名参加（前年度1件 55名）
- ・募集団団体：かいけつゾロリ列車企画 12回 400名参加（前年度12回 409名）
- ・震災学習列車：249件 11,997名参加（前年度190件 9,577名参加）
- ・三鉄沿線駅 - 1 グルメ旅：1,336人
- ・三鉄沿線の旅：100件 221人

## ② 物産事業

### ア 直営店「さんてつや」の営業

沿線市町村を中心とした特産品や当社オリジナルグッズを販売したほか、宮古駅キオスク撤退に伴う販売商品・営業時間の拡充を図り、販売促進に努めました（店舗での売上 36,805 千円）。

### イ オンラインショップの運営

当社オリジナルグッズを中心に販売を強化したほか、定期的にセールを実施し、売上強化に努めました（売上 22,361 千円）。

### ウ オリジナル商品の開発・販売

- ・「三鉄ピルスナー」・「さんてつ時刻表パーカー」・「さんてつカレンダー2023」等、計 13 品
  - ・三鉄ギフト（夏・冬）の販売
- 夏（6月～8月）[9,088 千円]・冬（11月～1月）[10,623 千円]

- ・地元菓子店「日進堂 DOUNEL」とのコラボレーションによるバレンタイン企画を実施
- 「久慈ありすバレンタインショコラ 2023」・「釜石まなバレンタインショコラ 2023」

### エ イベント外販

- ・沿線市町村・関係団体等との連携によるイベントへの出店（39 回）

### オ ふるさと岩手応援寄付

- ・ふるさと納税制度を活用した、岩手県のふるさと岩手応援寄付による、三陸鉄道支援に対する返礼品等の発送を行いました。

寄附いただいた人数 114 人 取扱額 1,230 千円

### カ 岩手県GoToEatキャンペーン事業

- ・食事券の販売事務受託。

## (3) 安全安定輸送への取組

当社においては、安全、安心でかつ安定的な運転の確保に努めており、2022 年度も老朽化が進んだ施設・設備の更新、改修・維持補修を順次、実施しました。

なお、保安設備についても新增設が必要な個所への設置、規制区間等の見直しを行うとともに、社員を外部訓練会に参加させる等の教育訓練を行いました。

また、社内においては定期的に安全管理委員会を開催するとともに、安全総点検、社内監査などを実施しました。

### ① 安全対策事業

- ・鉄道軌道安全輸送設備等整備事業

リアス線・第3白井トンネル・猿峠トンネル改修工事

リアス線・三陸～唐丹駅間通信ケーブル増設工事

リアス線・宮古～田老駅間マクラギPC化工事

リアス線・一の渡駅・田老駅・岩泉小本駅継電連動更新工事

### ② 保安対策事業

- ・外部訓練・講習会への参加
- ・安全管理委員会の定例開催及び安全総点検、社内監査の実施
- ・異常時対応の実車訓練を実施（信号故障対応）

#### (4) 支援の状況

当社は、厳しい財政状況から国、県、市町村等から必要な支援を受けており、今期においては、次のとおり支援を受けました。

・ 運営費補助（設備維持補助）	271,713 千円
・ 運営費補助（人材確保支援）	15,000 千円
・ 鉄道安全輸送設備等整備事業補助	299,795 千円
・ 三陸鉄道経営移管交付金	157,615 千円
・ 三陸鉄道運行支援交付金	194,000 千円
・ 地域公共交通確保維持改善事業費補助	33,880 千円
・ 地域独自の観光資源を活用した稼げる看板商品創出事業補助	6,332 千円
・ 三陸鉄道車両クリエーション補助	10,846 千円

### 3 対処すべき課題

2022 年度（第 42 期）は、前期に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けているものの、地元利用や団体利用がやや持ち直し、旅客運賃収入、関連事業収入は増加しました。一方で修繕費や燃料費、水道光熱費などが増加したことにより経常費用が増加しており、経常損益はやや改善しているものの、厳しい経営状況となりました。

2023 年度（第 43 期）も、引き続きお客様の協力もいただき、感染症対策を含め安全安心な輸送の確保を図っていきます。その上で、住民の利便性やニーズに配慮したダイヤの設定や定期運行、多くの皆様が楽しめるイベントや企画列車の実施など地域の方々に日々愛され、利用される鉄道を目指します。

また、平成 31 年 1 月に認定を受けた「鉄道事業再構築実施計画」に則り、「安全・快適な輸送サービスの確保」、「利用促進等による収入の確保」、「一貫運行による経営の改善等」に引き続き取り組み、安全性・利便性の向上や投資計画・経費構造の抜本的な見直し、組織体制の強化、人員の確保と適正な配置など経営資源の効率的な運用を図っていきます。

さらに、国際目標である SDGs（持続可能な開発目標）の考え方を取り込み、事業を通じて SDGs の課題解決に貢献するとともに、事業の持続的な成長を目指します。

### 4 設備投資の状況

当期に実施した設備投資の総額は 327,488 千円であり、その内容は次のとおりです。

○ 鉄道安全輸送設備等整備事業補助金	299,795 千円
(1) リアス線・第 3 白井トンネル・猿峠トンネル改修工事	14,324 千円
(2) リアス線・三陸～唐丹駅間通信ケーブル増設工事	101,703 千円
(3) リアス線・宮古～田老駅間マクラギ PC 化工事	72,740 千円
(4) リアス線・一の渡駅・田老駅・岩泉小本駅継電連動更新工事	111,028 千円
○ 三陸鉄道運営費補助金（設備維持補助金）	8,661 千円
(1) リアス線・変圧器更新工事代	8,661 千円
○ 三陸鉄道経営移管交付金	10,672 千円
(1) リアス線・岩手船越 132k000m 排水設備更新工事	3,600 千円

(2) リアス線・害獣防護柵・防草シート設置工事	7,072 千円
○ 三陸鉄道車両クリエーション補助金	8,360 千円
(1) レトロ車両・モニター設置 (2両)	4,455 千円
(2) 一般車両・テーブル設置 (3両)	3,905 千円

## 5 直前3事業年度の財産及び損益の状況

区 分	2019 年度 (第 39 期)	2020 年度 (第 40 期)	2021 年度 (第 41 期)	2022 年度 (第 42 期)
営業収益	684,982 千円	398,443 千円	412,973 千円	436,165 千円
当期純利益	151,229 千円	3,752 千円	▲4,501 千円	▲806 千円
1 株当たり当期純利益	4,942 円	122 円	▲147 円	▲26 円
総資産合計	884,968 千円	2,651,915 千円	1,293,056 千円	910,244 千円

## 6 当該事業年度の末日における主要な事業内容

- (1) 鉄道事業法による第1種鉄道事業及びこれに附帯関連する事業
- (2) 旅行業法による第2種旅行業
- (3) 物品販売業

## 7 当該事業年度の末日における主要な事業所等

本 社	宮古市栄町4番地
事業所	・事業本部 宮古市栄町4番地
	・運行本部 宮古市宮町1丁目1-19
	・施設本部 宮古市宮町1丁目1-50
	・旅客営業部 宮古市宮町1丁目1-80
	宮古駅 宮古市宮町1丁目1-80
	・大船渡派出所 大船渡市盛町馬場4-4
	釜石駅 釜石市鈴子町22-5
	盛駅 大船渡市盛町東町裏16
	・久慈派出所 久慈市川崎町10-20

※市町村等への業務委託駅：大槌駅・陸中山田駅（休業駅：田老駅）岩泉小本駅・島越駅  
 田野畑駅・普代駅・陸中野田駅・久慈駅

※綾里駅・三陸駅は、2023年3月20日をもって委託販売を終了しました。

## 8 従業員の状況

区 分	従 業 員 数	平 均 年 齢	平均勤続年数
男 子	79 名	44.1 才	17 年 9 ヶ月
女 子	9 名	28.4 才	3 年 9 ヶ月
計	88 名	42.5 才	16 年 5 ヶ月

※ このほか臨時雇用従業員17名、パート従業員1名、岩手県から2名、東日本旅客鉄道(株)から出向24名を受入れています。

なお、2022年6月15日付けで1名、10月31日付けで1名、12月31日付けで1名、2023年3月15日付けで1名、3月31日付けで1名が退職いたしました。

## 9 親会社等に関する事項について

当社は、岩手県及び岩手県内市町村から発行済み株式総数の75.8% (23,200株)の出資を受けています。

※ 岩手県47.1% (14,400株)、沿線市町村22.2% (6,800株)、沿線外市町村6.5% (2,000株)、岩手県知事が取締役会長に就任しています。

## II 株式に関する事項

- 1 会社が発行する株式の総数 100,000株
- 2 発行済株式の総数 30,600株
- 3 当事業年度末の株主 46名
- 4 主な株主の状況

株主名	持株数	持株比率
岩手県	14,400株	47.1%
宮古市	1,350株	4.4%
(株)岩手銀行	1,200株	3.9%
大船渡市	1,150株	3.8%
日本製鉄(株)	1,000株	3.3%
東北電力(株)	1,000株	3.3%
一関市	700株	2.3%
久慈市	650株	2.1%
釜石市	650株	2.1%



### Ⅲ 会社役員に関する事項

#### 1 取締役及び監査役の状況

(2023年3月31日現在)

会社における地位	氏名	他の法人等の代表状況等
取締役会長	達増 拓也	岩手県知事
取締役副会長	山本 正徳	宮古市長
取締役副会長	遠藤 譲一	久慈市長
取締役副会長	野田 武則	釜石市長
代表取締役社長	石川 義晃	
取締役	平野 公三	大槌町長
取締役	佐藤 信逸	山田町長
取締役	中居 健一	岩泉町長
取締役	佐々木 靖	田野畑村長
取締役	柁屋 伸夫	普代村長
取締役	小田 祐士	野田村長
取締役	岡田 真一	岩手開発鉄道(株) 代表取締役社長
取締役	大井 誠治	岩手県漁業協同組合連合会 代表理事会長
取締役	熊谷 泰樹	岩手県ふるさと振興部長
取締役	金野 淳一	
取締役	村上 富男	
監査役	岩山 徹	(株)岩手銀行 代表取締役頭取
監査役	石塚 恭路	(株)北日本銀行 代表取締役頭取

#### 2 取締役又は監査役ごとの報酬等の総額

取締役の報酬総額 5,040千円

監査役の報酬はありません。

### Ⅳ 決算期後に生じた会社の状況に関する重要な事実

該当する事項はありません。